



全体整備計画



	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
南口駅前広場	←→		
中央通り線	←→		
南口駅前拠点	施設	←→	
	広場	←→	
賑わい創出交流広場	←→		
路地を生かした散策ルート	←→		



10月14日に行われた起工式

Mayor's words



町民の皆様と共に
笑顔があふれ、誇れるまちを！
寄居町長 花輪 利一郎

寄居駅南口駅前広場整備工事の起工式が10月14日に行われ、寄居町の顔ともいえる中心市街地の整備に本格的に着手いたしました。来年度からは中央通り線の整備工事も始まります。この事業は、半世紀にもわたる古くて、そして長い懸案事項でありましたが、平成30年3月に「寄居町中心市街地活性化基本計画」が全国で743ある町の中では初めて、内閣府の認定を受けました。この認定を機とし、私は「何としてもやり遂げなければ。今しかない。今やらねば」との強い想いを町民の皆様へ訴えてきたところであります。

この事業を推進するにあたり、幸いなことに「株式会社まちづくり寄居」の柴崎猛代表取締役（寄居町商工会長）には、自身のライフワークとして取り組んでいただき、大変心強く感じております。また、自らの企業で培った経営手腕、そして豊富な人脈は、必ずや生かしていただけるものと大いに期待しているところであります。まだ一部の工事が始まったばかりで、本格的に町が変化していくにはこれからとなりますが、お互いが大きな目標に向かい、退路を断ち、事業全体の完成を目指し、挑んでいるところであります。

そして、この大事業を実施するにあたりまして、地権者をはじめとする多くの関係者の皆様方の深いご理解とご協力の賜物であると、心から感謝と御礼を申し上げます。

また、多くの町民の皆様へ参画していただき、「共創のまちづくり」の機運が醸成されたことは、期待を大きく超えるものであり、まちづくりを進めるにあたり大きな期待を感じているところであります。また、工事は緒に就いたばかりではありますが、日に日に変化する町の進化を見守っていただきたいと思います。そして、この中心市街地のまちづくりをより良いものとするためには、今後実施していくさまざまな事業に、町民の皆様への積極的な参画が大きなポイントとなります。私といたしましても、全力で取り組んでまいりますので、知恵と工夫と力を結束し、「笑顔があふれ、誇れるまち」を共に創っていきましょう！

未来へ向かう中心市街地活性化事業。

中心市街地活性化事業では、道路や施設の整備を行うハード事業だけではなく、ソフト事業と呼ばれる賑わいを創出するためのイベントや創業支援、まちなか居住の推進など、さまざまな事業を展開しています。事業期間が終了しても、まちづくりは未来へ向かい、続いていきます。行政の力だけでは、まちづくりは行うことはできません。皆さんの声が未来への道筋となり、まちづくりの基礎となります。

ワークショップの開催

中心市街地活性化基本計画には、「寄居駅南口駅前拠点広場」と旧役場跡地に造られる「賑わい創出交流広場」の2つの広場が位置付けられています。この2つの広場を整備するに当たり、町民の皆さんの生の声を聞かせていただくため、8月からワークショップを計4回開催しています。

駅前の広場としての機能や役割について、参加者の皆さんが共同で作業を行いながら、積極的に議論していただいています。このワークショップでいただいた意見については、取りまとめた後、2つの広場の設計に反映してまいります。

今後の中心市街地活性化

今、寄居駅南口が変わろうとしています。未来に向けて魅力と活力のある市街地とするため、今後も積極的な事業展開を図っていきます。



方々が交流できる多目的広場として、「賑わい創出交流広場」を整備します。中心市街地活性化基本計画は、常に見直しを行っていきます。次の見直しに合わせて、国土交通省が実施する「官民連携まちなか再生推進事業」を計画に位置付ける予定です。この事業の一環として、旧役場跡地の一部に小さな広場「GOOD PARK」を期間限定で設置しました。ここでは、町内の事業者

現在工事中の駅前広場、来年度から始まる中央通り線と共に、今後は、駅前広場に隣接した約1400平方メートルの敷地に、観光・経済の拠点となる施設と広場を、旧役場跡地には、さまざまな

寄居町地域おこし協力隊員

空き家・空き店舗活用支援、
移住希望者・創業希望者支援活動

魅力向上・集客促進活動



大田 幸子 隊員
(鹿児島県阿久根市出身)



後藤 美乃里 隊員
(岐阜県岐阜市出身)

協力隊Instagram



YORIHACHI.HYOURYOHUTAI

が中心となり、外部からの人材の協力をいただきながら、広場を設置したことにより、「人の流れがどう変わり、広場自体がどのように使われるのか」等の実証実験を行います。ここで得られた検証結果を今後の広場整備に生かしていきます。

また、7月からは、地域おこし協力隊員として2人の女性が町内に移住し、まちづくりの一翼を担っています。彼女たちの活躍もまちづくりには欠かせませんが、できません。「官民連携まちなか再生推進事業」と共に、「地域おこし協力隊」の活動も、中心市街地活性化基本計画に位置付けていく予定です。

この他にも、官民連携により、さまざまな方が関わることもできます。限られた輪の中ではなく、誰もが気軽に参画できるまちづくりを実践し、町民の皆さんはもちろん、来町される方々にも「歩きたくなる・歩いておぼなまち」を体感していただけるよう、官民の力を結集し、一体となって取り組んでいきます。